文部科学省大学教育再生加速プログラム（ＡＰ）事業

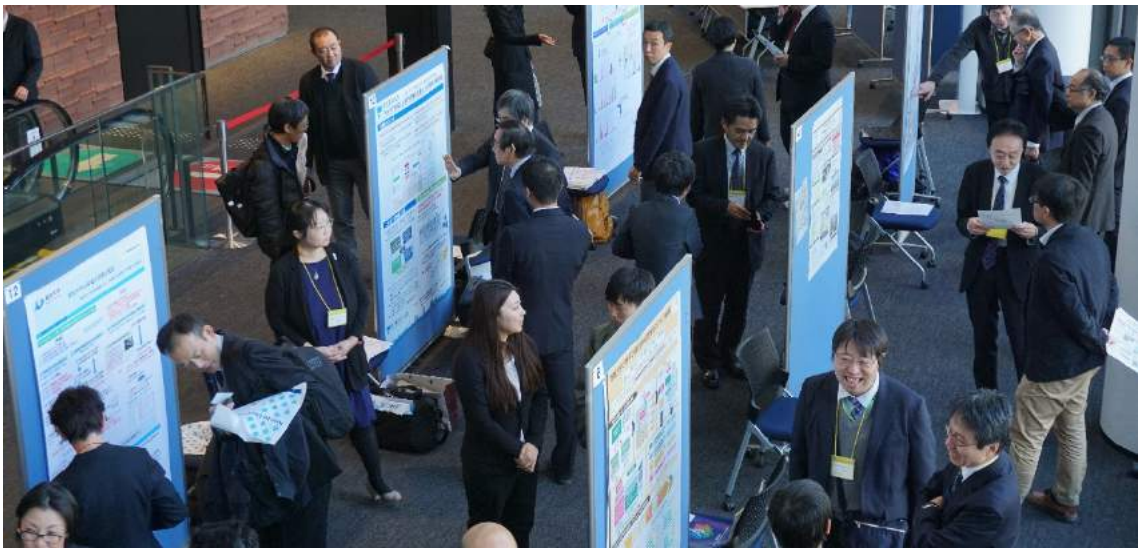
令和元年度高知大学・大阪工業大学 AP 事業シンポジウム

日　時：令和元年11月29日（金）　13：00～17：30（ポスターセッション12：00～15：00）
場　所：大阪工業大学梅田キャンパス OIT梅田タワー３階 常翔ホール
　　（大阪府大阪市北区茶屋町１番45号）
主　催：高知大学・大阪工業大学
共　催：日本福祉大学　　協　賛：関西地区FD連絡協議会

令和元年 11 月 29 日（金）に大阪工業大学梅田キャンパス 常翔ホールにて、AP 事業のテーマ Ⅴ「卒業時における質保証の取組の強化」に採択されている高知大学と大阪工業大学の共同主催による AP 事業シンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、日本福祉大学の共催及び関西地区 FD 連絡協議会の協賛のもと、「学びの質保証に向けた教学マネジメント」をテーマに、本年度が最終年度となる AP 事業の取組終了後を見据え、学生の成長を支援し社会が求める人材を育成する方策について、大学のマネジメントの観点から議論することを目的として企画したものです。当日は、高等教育関係者を主とした 137 名の方々にご参加いただきました。また、シンポジウムの開始前には AP 事業採択校 12 校によるポスターセッションも行われました。

●ポスターセッションの様子



シンポジウムは、櫻井克年高知大学長と益山新樹大阪工業大学長の挨拶に始まり、基調講演の講師として愛媛大学教育・学生支援機構教授である中井俊樹氏と文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室の室長補佐である髙橋浩太朗氏をお招きしてご講演いただきました。

中井俊樹氏による基調講演Ⅰでは、「学びの質保証に向けた教学マネジメント」と題して、「大学教育の質保証の特徴」、「大学のカリキュラムの編成原理」、「教学マネジメントの

体制の整備」の３つの論点で講演が行われました。質保証の特徴としては、学生を育てる教育と評価が重要であること、具体性を持った目標と評価基準を明確にすること等が強調され、カリキュラムの編成については、理論や方向性、構成する因子などの考慮すべき多数の変数について具体的な資料を用いて説明がなされました。また、教学マネジメントを実施するための体制整備については、カリキュラム編成やPDCAサイクルの確立、ハード面とソフト面での体制の強化が必要である旨が述べられました。

髙橋浩太朗氏による基調講演Ⅱでは、「教学マネジメント指針の検討状況について」と題し、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」の概要の説明と、教学マネジメント特別委員会における検討状況について説明がなされました。各大学の個性や特色が反映された３つの指針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）が教学マネジメントの確立にあたり最も重要なものであることが述べられ、学習者本位の教育の実現及び教育の質保証の課題に取り組むことが示されました。

基調講演Ⅰ　中井 俊樹 氏

基調講演Ⅱ　髙橋 浩太朗 氏

AP 事業テーマ V 幹事校である日本福祉大学の中村信次教授による幹事校挨拶では、AP事業テーマV採択校の取組状況や課題について説明があり、続いて、高知大学の小島郷子教授と大阪工業大学の井上晋教授が登壇し、各校のAP事業の取組について報告が行われました。

その後のパネルディスカッションでは、大阪工業大学教育センター長の椋平淳教授がコーディネーターを務め、高知大学の奥田一雄理事（教育担当）が加わり、「学びの質保証に向けた教学マネジメント」について議論が行われました。まず、パネリストから高知大学と大阪工業大学の取組に対するコメントが述べられた後、コーディネーターからAP事業での取組を今後の教育マネジメントにどのように活かしていけるかという問題提起がなされました。また、当日はWeb上で登壇者への質問を受け付けたこともあり、参加者から多数の質問が寄せられ、パネリストが質問に答えるかたちで活発な議論が行われました。

最後は高知大学大学教育創造センター副センター長の塩崎俊彦教授からの挨拶により、盛会の内に閉会となりました。

【シンポジウムの様子】

●登壇者一覧

開会挨拶

櫻井　克年（高知大学）

開催校挨拶

益山　新樹（大阪工業大学）

基調講演Ⅰ

中井　俊樹氏（愛媛大学）

基調講演Ⅱ

髙橋　浩太朗氏（文部科学省）

幹事校挨拶

中村　信次氏（日本福祉大学）

高知大学取組報告

小島　郷子（高知大学）

大阪工業大学取組報告

井上　晋（大阪工業大学）

コーディネーター

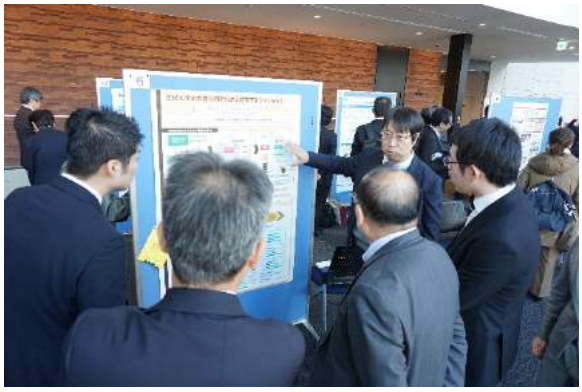
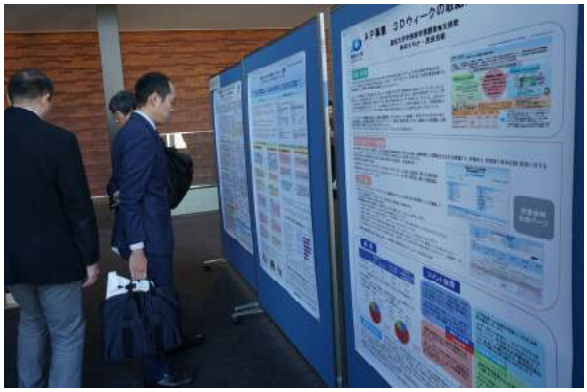
椋平　淳（大阪工業大学）

パネリスト

奥田　一雄（高知大学）

閉会挨拶

塩崎　俊彦（高知大学）

●パネルディスカッション

●ポスターセッション